

土砂災害情報

土砂災害警戒区域・土砂災害特別警戒区域

土砂災害警戒区域及び土砂災害特別警戒区域は、土砂災害防止法※に基づいて調査を行い、指定・公示された区域です。

※正式名称「土砂災害警戒区域等における土砂災害防止対策の推進に関する法律」

基礎調査の実施

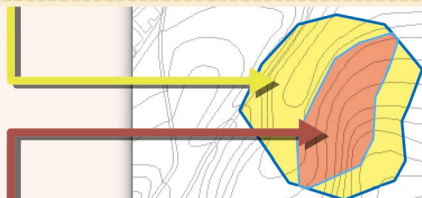
都道府県が、土砂災害により被害を受ける恐れのある場所の地形や地質、土地の利用状況などを調査します。



区域の指定

土砂災害警戒区域（通称：イエローゾーン）

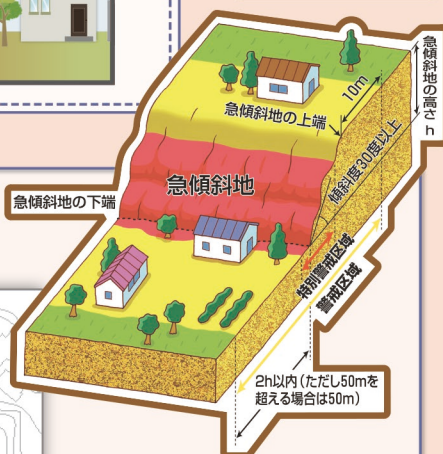
急傾斜地の崩壊等が発生した場合に、みなさんの生命または身体に危害が生ずる恐れがあると認められる区域です。災害の恐れが高まった場合には避難施設が開設されます。ハザードマップを参考に避難の方法を考えておきましょう。



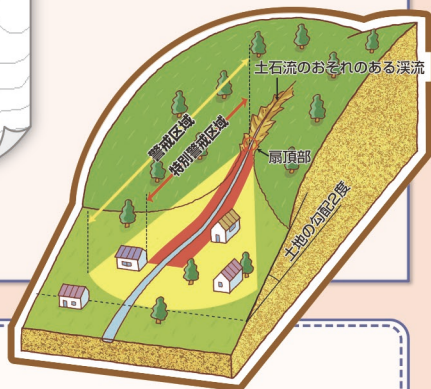
土砂災害特別警戒区域（通称：レッドゾーン）

急傾斜地の崩壊等が発生した場合に、建築物に損壊が生じみなさんの生命または身体に著しい危害が生ずる恐れがあると認められている区域です。また、特定の開発に許可が必要な場合や、建築物の構造に規制がかかる場合があります。

急傾斜地の崩壊



土石流



避難に関する情報が出たら

- 適切な避難施設に避難しましょう。
- がけや斜面地に近づかないようにしましょう。
- 避難が困難な場合は無理に屋外に出ず、屋内に留まり、建物の上階に避難しましょう。

▶ 目頃から避難施設や避難方法の確認を!!

column

土砂災害警戒情報とは

土砂災害警戒情報は、大雨警報（土砂災害）の発表中に、さらに土砂災害の危険度が高まったときに気象庁と都道府県が共同で発表する情報で、地方自治体の行う避難勧告等の防災対応の判断や、住民の自主的な避難行動の判断等の参考としていただくことを目的としています。土砂災害警戒情報が発表されたら、がけの近くなど土砂災害の発生しやすい地区にお住まいの方は、早めの避難を心がけるとともに、市町村から発表される避難勧告等の情報に注意してください。

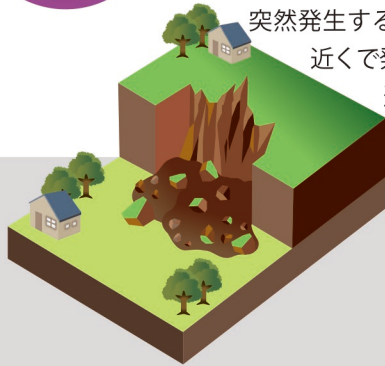
土砂災害情報

土砂災害の種類

土砂災害の発生原因となる自然現象として、急傾斜地の崩壊、土石流、地すべりがあり、以下のような特徴があります。また、土砂災害が発生するときには、多くの場合、何らかの前兆現象が現れます。こうした前兆現象に気づいたら、周囲の人にも知らせ、いち早く安全な場所に避難しましょう。

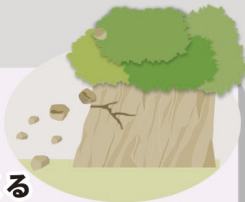
急傾斜地の崩壊

地中にしみ込んだ水分が土の抵抗力を弱め、雨や地震などの影響によって急激に斜面が崩れ落ちることをいいます。急傾斜地の崩壊は、突然発生するため、人家の近くで発生すると逃げ遅れる人も多く死者の割合も高くなっています。



前兆現象

がけから小石がばらばらと落ちてくる



がけから水がわき出ている

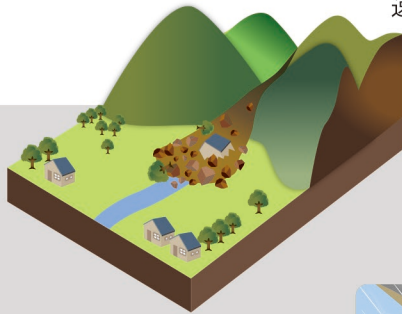


がけに割れ目が見える



土石流

山腹、川底の石や土砂が長雨や集中豪雨などによって一気に下流へと押し流されることをいいます。その流れの速さは規模によって異なりますが、時速20~40kmという速度で一瞬のうちに人家や畑などを壊滅させてしまいます。

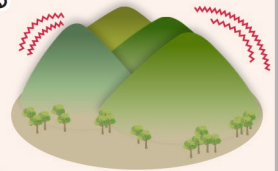


前兆現象

雨が降り続けているのに川の水位が下がる



山鳴りがする



急に川の流れが濁り流木が混ざっている



地すべり

斜面の一部あるいは全部が地下水の影響と重力によってゆっくりと斜面下方に移動する現象のことをいいます。一般的に移動土塊量が大きいため、甚大な被害を及ぼします。また、一旦動き出すとこれを完全に停止させることは非常に困難です。

前兆現象

❗ 地面にひび割れができる ❗ 沢や井戸の水が濁る ❗ 池や沼の水の量が急激に変化する

上記の前兆現象はあくまで一般的なものです。これらの現象が見られなくても土砂災害が発生する場合があります。少しでも危険と判断したら早めに自主避難をしましょう。

避難時の心得

避難経路の確認を

土砂災害警戒区域等の危険な箇所を避けて、避難経路を設定しましょう。また、家庭や地域で話し合いながら、事前に避難経路を確認しましょう。



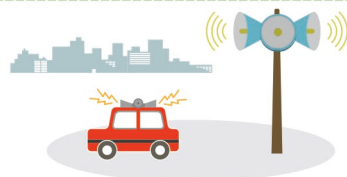
正確な情報収集と自主的避難を

テレビ・ラジオ・インターネットなどで最新の気象情報、災害情報、避難情報に注意しましょう。雨の状況や浸水の状況に注意し、危険を感じたら自主的に避難しましょう。



避難の呼びかけに注意

危険がせまったときには、市役所、警察署、消防署、消防団から、防災行政無線や広報車などにより、避難の呼びかけを行います。呼びかけがあった場合には、速やかに避難してください。



避難行動要支援者の避難にご協力を

高齢者・障がい者・病気やけがをしている方は早めの避難が必要です。隣近所の避難行動要支援者の避難にご協力ください。



車での避難は控えて

自動車での避難は緊急車両の妨げになります。また、交通渋滞をまねき、浸水すると動けなくなりますので、特別の場合を除きやめましょう。



動きやすい格好、二人以上での避難

避難するときは、自主防災組織内で声をかけ合って避難しましょう。また、水面下では道路や側溝などの境目がわかりにくいので、杖などで安全を確認しながら歩きましょう。



屋内での避難対策

風雨が激しくなり、外へ出ることが危険な場合は、建物の上の階へ移動しましょう。さらに、家の中でもがけや急傾斜地から離れた場所がより安全です。



町田市からの情報伝達 / 特別警報とは

町田市からの情報伝達



町田市役所

防災行政無線放送・防災行政無線フリーダイヤル

☎ 0800-800-5181

市民のみなさんへお伝えすべき重要な情報及びJ-ALERTによる国からの情報等を放送します。また、防災行政無線フリーダイヤルで、放送した内容を電話で確認できます。通話料はかかりません。

町田市メール配信サービス

防災行政無線で放送した情報や、町田市の気象警報に関する情報等をメールで配信します。

登録
は
こちら
▶▶▶

スマートフォン用

携帯電話用



町田市ホームページ

市民のみなさんへお伝えすべき重要な情報について、町田市ホームページに掲載します。

PC用

<https://www.city.machida.tokyo.jp/>

スマートフォン用

<https://www.city.machida.tokyo.jp/smph/index.html>

従来型携帯電話用

<https://www.city.machida.tokyo.jp/mobile/index.html>

報道機関への放送依頼

市民のみなさんへお伝えすべき重要な情報について、報道機関へ放送を依頼します。

市が協定を締結している報道機関

《FM放送》 F Mヨコハマ (84.7MHz)
F M H O T 839 (83.9MHz)
《ケーブルテレビ》 イッツ・コミュニケーションズ
ジェイコムせたまち
多摩テレビ

その他

広報紙

広報車

代表電話



市民のみなさん

特別警報とは

特別警報とは、警報の発表基準をはるかに超える豪雨や大津波等が予想され、重大な災害の危険性が著しく高まっている場合に発表されるもので、最大限の警戒を呼びかけます。

特別警報が対象とする現象は、「東日本大震災」における大津波や、我が国の観測史上最高の潮位を記録した「伊勢湾台風」の高潮、100人近い死者・行方不明者を出した「平成23年台風第12号」の豪雨等が該当します。

特別警報が出た場合、お住まいの地域は数十年に一度しかないような非常に危険な状況にあります。ただちに命を守るための行動をとってください。

風水害情報

気象情報の発表基準について

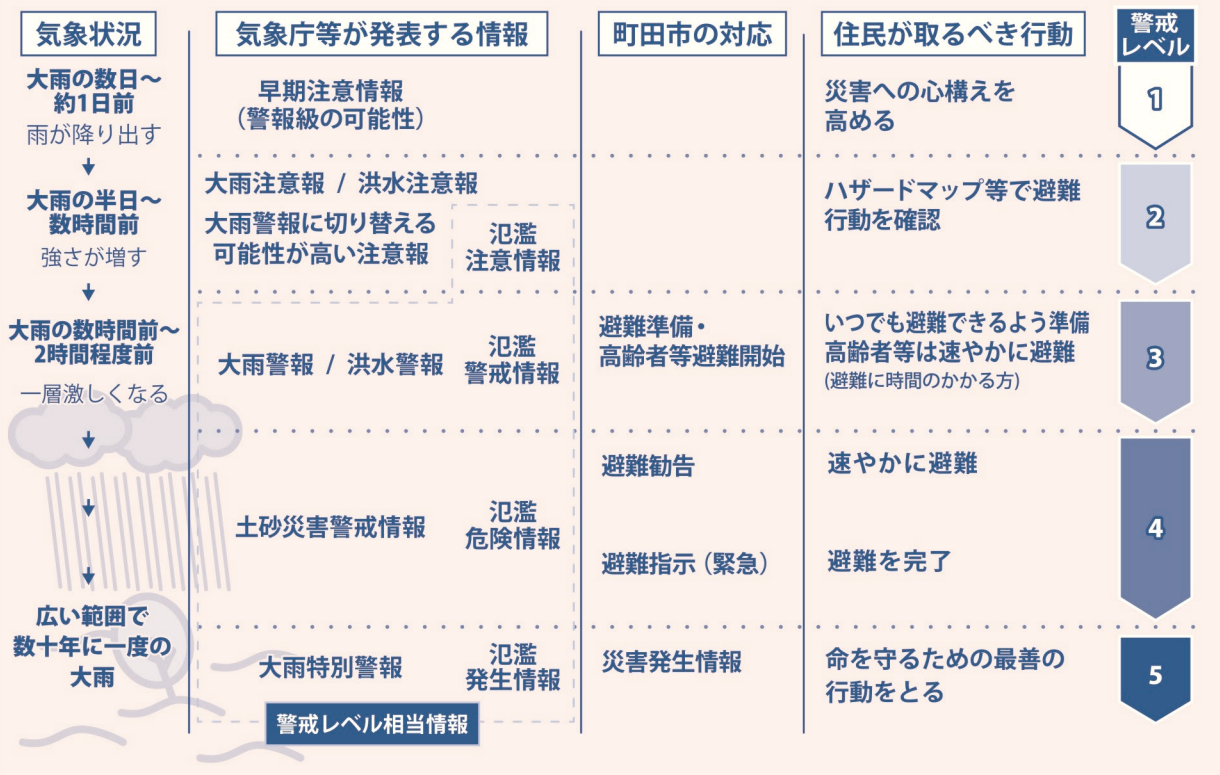
気象庁は、大雨や強風などの気象現象によって災害が発生する恐れのあるときに「注意報」を、重大な災害が発生する恐れのあるときに「警報」を発表して、注意や警戒を呼びかけます。気象庁が発表する町田市の注意報・警報の発表基準については、次のとおりです。**町田市は多摩南部地域**になります。

種類		発表基準
注意報	大雨注意報	大雨による災害が発生する恐れがあると予想したときに発表されます。対象となる災害として、浸水災害や土砂災害などがあげられます。
	洪水注意報	大雨、長雨、融雪などにより河川が増水し、災害が発生する恐れがあると予想したときに発表されます。
警報	大雨警報	大雨による重大な災害が発生する恐れがあると予想したときに発表されます。
	洪水警報	大雨、長雨、融雪などにより河川が増水し、重大な災害が発生する恐れがあると予想したときに発表されます。

注意報や警報は気象要素（表面雨量指数、土壌雨量指数、流域雨量指数）が基準に達すると予想した区域に対して気象庁が発表します。

防災気象情報と住民の行動

気象庁は、低気圧や台風の接近などによって、大雨や強風により、災害が発生する恐れがある場合、警報や注意報などの防災気象情報を発表します。発表のタイミングや内容、住民のみなさんにとっていただきたい行動については概ね次のとおりです。



風水害情報

都市型水害に注意しましょう

市街化が進むと、地面が建物やアスファルトで覆われ、今まで地下に浸透していた雨水が下水道へ流れ込み、短時間に大雨が降ると排水しきれず道路冠水や住宅への浸水被害が発生し、これを「都市型水害」と呼んでいます。平成11年には新宿区と福岡市で地下室への浸水による死亡事故、平成12年には名古屋市で東海豪雨による広範囲な浸水被害が発生しています。

⚠️ 都市型水害では、特に次のことに注意をしてください

急激な増水と早期避難

町田市を流れる、境川、鶴見川、真光寺川、恩田川は都市河川です。豪雨があると一気に河川の水位が上昇し周辺へ溢れだします。浸水深が50cmを超えると歩行が困難になります。最寄りの市民センターが臨時避難施設になりますので早めに避難をしてください。

増水が急な場合には流される危険があるので、2階以上の高いところへ一旦避難してください。また、浸水深が50cmを超えるとドアを開けることが困難になります。

地下室・半地下室からの退避

地下室では、屋外の様子はわかりません。大雨警報・大雨注意報が発表されるなど、浸水の恐れが出てきた場合は地下室の使用を控えてください。水が流れこむと水圧でドアが開かず脱出できなくなります。

車で水の溜まったアンダーパスは通らない

豪雨時に水の溜まったアンダーパスは、水深がわからないため、進入すると車がエンストし閉じ込められる可能性があります。危険ですので進入しないでください。

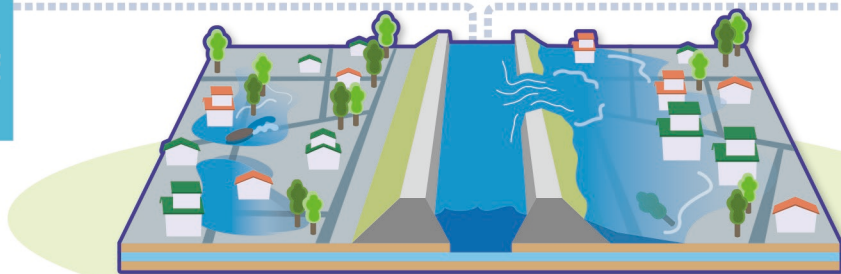
マンホールに注意

道路が冠水すると、マンホールの位置がわからなくなります。マンホールからの吹き上げなどでマンホールの蓋が外れている恐れがあります。マンホールに落ちる危険があるので、浸水時の歩行には細心の注意を払いましょう。

内水氾濫と外水氾濫

氾濫には、河川の水が堤防を越えて溢れ出す「外水氾濫」と、市街地に降った大雨が地表に溢れる「内水氾濫」との2種類があります。比較的、堤防の整備が進んだ都市部では、内水氾濫が新たな課題となっています。

内水氾濫



外水氾濫

堤防から水が溢れなくても、河川へ排水する水路等の排水能力の不足などが原因で、降った雨を排水処理できなくて引き起こされる氾濫。

河川の水が堤防から溢れる、あるいはそれによって河川の堤防が破堤した場合などに起こる氾濫。氾濫流が一気に市街地に流入し短時間で住宅等の浸水被害が発生するため、人的な被害も発生してしまう場合が多い。

非常持ち出し品

まずこれだけは備えよう

家庭備蓄と非常持ち出し品の準備をしておきましょう

地震の備えを含め、普段から3日分の食料・水などの家庭備蓄品を準備しておきましょう。また、懐中電灯・携帯ラジオなどを避難用袋に入れ、玄関などの持ち出しやすい場所に用意しておきましょう。

貴重品

預貯金通帳、証券、印鑑、健康保険証、重要書類、現金、連絡カードなど貴重品袋に持ち出しやすいようにまとめて保管しておくとい。



救急医薬品

脱脂綿、ガーゼ、三角巾、ばんそうこう、包帯、目薬、消毒液、軟こう、鎮痛剤、胃腸薬など。持病のある方は常備薬を。



食料品

火がなくても食べられ、カロリーが高いものを。レーズン、ナッツ類、ビスケット、缶詰、粉ミルクなど。



避難用袋

荷物は一人ずつに分け、リュックなどの両手をあけられるものにする。



飲料水

ペットボトルや缶入り飲料水を常備する。一人分1日3リットルを目安に。



食器類

割れにくいプラスチックや金属製を。スプーン、フォークなども用意しておく。



ライター・マッチ

マッチはしけらないようにポリ袋に保管する。



ライト・ろうそく

両方そろえる。



缶きりつきナイフ



筆記用具

記録や連絡メモのために。



携帯ラジオ

正確な情報をいち早く知り、無駄のない的確な行動を取るために。



雨ガッパ



軍手



予備の電池



タオル



シート・毛布



ティッシュペーパー トイレトペーパー



下着類



石けん



ポリ袋



固形燃料

